

Information 精神看護に関連する学会・研究会・研修会

開催月日	学会名	開催地
6月		
23日(日)	NPOメンタルケア協議会第14回シンポジウム 急速に変貌している精神科医療と精神保健福祉法の改正	SYDホール(東京都渋谷区)
29日(土)～9月28日(土)	国立精神・神経医療研究センターTMC臨床研究計画書(プロトコル)ブラッシュアップセミナー(全4回)	国立精神・神経医療センター TMC (東京都小平市)
30日(日)	災害看護グローバルリーダー養成プログラム 学際セミナー	大阪新丸ビル別館4F(大阪市東淀川区)
7月		
6日(土)～7日(日)	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第15回大会	聖路加看護大学(東京都中央区)
13日(土)	精神科認定看護師の会 「地域移行に必要な看護の視点」 講師：藤田茂治(訪問看護ステーションみのり)	名古屋港湾会館・ 問い合わせ：中西清晃 ishikawa@kiyoaki.name
19日(金)～20日(土)	第35回日本中毒学会総会・学術集会	大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)
26日(金)	うつ病リワーク研究会 医療従事者向け研修会	アスティ45ビル(札幌市)
27日(土)～28日(日)	日本行動分析学会第31回年次大会	岐阜大学(岐阜市)
8月		
17日(土)～18日(日)	DV被害者対応スキルアップ研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区)
24日(土)	精神科認定看護師の会 「精神科看護にいかす 診断・治療・薬物療法」 講師：姫井昭男(PHメンタルクリニック)	日精看京都研修センター・ 問い合わせ：田邊友也 a_genius_tomoya@ybb.ne.jp
24日(土)～25日(日)	第17回日本看護管理学会学術集会	東京ビッグサイト(東京都江東区)
31日(土)	精神障がい親と暮らす子どもの集い・交流会	東京医科歯科大学(東京都文京区)
31日(土)～9月1日(日)	日本精神科看護学会第20回専門学会Ⅰ	前橋市民文化会館(群馬県前橋市)
31日(土)～9月1日(日)	日本家族心理学会30周年大会	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
9月		
5日(木)～6日(金)	第6回看護専門研修会(ICLS)	自治医科大学創立20周年記念棟(栃木県下野市)
9日(月)～10日(火)	第6回全国精神保健福祉家族大会(みんなねっと)	大阪国際会議場(大阪市北区)
13日(金)～15日(日)	第37回日本自殺予防学会総会	秋田県総合保健センター(秋田市)
14日(土)	国際看護研究会第16回学術集会	国際協力機構JICA横浜(神奈川県横浜市)
14日(土)	多文化間精神医学ワークショップ20周年記念大会	大正大学(東京都豊島区)
18日(水)～20日(金)	第11回口腔ケア研修会	自治医科大学地域利用研修センター(栃木県)
21日(土)～22日(日)	第29回日本精神衛生学会大会	宮城大学大和キャンパス(宮城県黒川郡)
28日(土)～29日(日)	日本アディクション看護学会第12回総会・学術集会	目白大学大学院 国立埼玉病院キャンパス

小誌では、できるだけ多くの情報を掲載したいと思っています。
イベント、研修会、研究会を企画されている方、広報を担当されている方は、
ぜひ小誌編集室までご一報ください。

FAX : 03-5804-0485 E-mail : seikan@igaku-shoin.co.jp

注目の学会に、見どころを聞いてみました（開催概要詳細は大会ホームページをご覧ください）

全国版 精神障がいの親と暮らす子どもの集い・交流会 8月31日(土)@東京

東京医科歯科大学でおこなわれるこの集会は、全国でも珍しい精神障害の親を持つ子どものための集いです。このコンセプトの交流会は、土田幸子さん（三重大学医学部看護学科）ら、「親&子どものサポートを考える会」（第9回精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）支援者部門受賞）が、三重で始めた取り組みで、全国版は初めての開催です。考える会の取り組みの詳細は本誌9月号（次号）に掲載予定ですので、ぜひお読みください。全国版の集いを開催するにあたり、土田さんにお話を伺いました。



●どんな方に来ていただきたいとお考えですか？

親御さんの障害のことを、誰にも話すことができずに孤独に過ごしてこられた方、障害を持つ親御さんとの生活で「これでいいんだろうか？」と戸惑ったり、自分に自信が持てなかった経験のある方、親御さんとの距離の取り方に悩まれている方など……ぜひお越しいただければと思います。

同じような境遇で育った仲間の語りは、「自分だけじゃなかったんだ」と思えたり、「こういう考え方もできるんだ」と、参考になることもあると思います。“仲間との出会いが、力になる”、三重の集いではそんな力強さも感じます。

《参加申し込み》

参加は“子どもの頃に精神障害の親御さんと暮らした経験のある成人した子ども”の方に限定させていただきます。参加ご希望の方は、①氏名、②年齢、③連絡先（電話番号・メールアドレスなど）、④参加動機（障害をお持ちの親御さんとの関係や思いなど）をメール（メール不可の方は電話可）で、《8月10日（土）》までにご連絡ください。ご連絡をいただいた後、受付終了の連絡を入れさせていただきます。＊託児等を希望される場合は、ご相談ください。

【連絡先】メールアドレス：sachiko@nurse.medic.mie-u.ac.jp TEL：059-231-5260

NEWS アリピプラゾールが、恩賜賞を受賞。「日本経済への貢献度が高い」と評価。

最も優れた発明に対して贈られる「^{おんし}恩賜賞」（公益社団法人発明協会主催、全国発明表彰の最高賞）を、2013年度は大塚製薬でエビリファイ（一般名：アリピプラゾール）を開発した大城靖男さん、佐藤誠司さん、倉橋伸幸さんが受賞することになった。恩賜賞は、発明自体が優れていることに加え、日本経済への貢献度が高い商品に対して贈られるもの。



佐藤誠司さん、大城靖男さん、倉橋伸幸さん（左から）

エビリファイは、ドパミン受容体を遮断しつつも、薬自体が信号を伝えるというユニークな特徴を持つ非定型抗精神病薬。そこにはドパミンを“悪”とみなさず、人にとって必要なものととらえる発想の転換があった。その特性により、ドパミンを遮断しすぎることによる錐体外路症状や、感情の鈍麻を避けることができる。開発者の1人である倉橋さんは、「看護師さんたちから、“生き生きと生活できている患者さんを見て、看護のモチベーションが上がった”と聞いたときは、開発した者としてうれしかった」と言う。

開発は1970年代から始まり、2002年にアメリカ、2006年に日本で発売された。世界60以上の国・地域で発売され、年間売上は4385億円（2012年度決算報告）にものぼる。「できるだけ副作用の少ない薬を、という考えで、これからも商品の価値を伝えていきたい」と倉橋さんは語った。